

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 2 区分

【発行日】令和 2 年 10 月 1 日 (2020.10.1)

【公開番号】特開 2019-65918 (P2019-65918A)

【公開日】平成 31 年 4 月 25 日 (2019.4.25)

【年通号数】公開・登録公報 2019-016

【出願番号】特願 2017-190217 (P2017-190217)

【国際特許分類】

F 1 6 L 33/00 (2006.01)

【F I】

F 1 6 L 33/00 B

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 8 月 21 日 (2020.8.21)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0039

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0039】

移動する前の移動片 120 が図 8 で説明した位置に配されることにより、複数の係合部 114 の先端が山部 M1 を通過させて谷部 V2 に至るまでの間に、移動片 120 が複数の案内部 116 から離れる位置に移動することができる。このため、複数の係合部 114 およびシール部材 140 によるコルゲート管 200 の接続が同期して実現される。したがって、コルゲート管 200 が内孔 103 に挿入されても、移動片 120 が複数の案内部 116 から離れないことでシール部材 140 がコルゲート管 200 の谷部に入り込めず複数の係合部 114 がコルゲート管 200 の谷部に係り合うことのみによってコルゲート管 200 が接続される状態、もしくは、コルゲート管 200 が内孔 103 に挿入されても、複数の係合部 114 がコルゲート管 200 の谷部に係り合えず移動片 120 が複数の案内部 116 から離れることでシール部材 140 がコルゲート管 200 の谷部に入り込むことのみによってコルゲート管 200 が接続される状態、となることを防止できる。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0057

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0057】

10, 10a, 10b ... 管継手

100, 100a ... 継手本体

102, 104 ... 溝部

103 ... 内孔

105 ... 突出部分

107 ... 雄ネジ部

110 ... 保持部材

112 ... 環状部

114 ... 係合部

116, 116b ... 案内部

117 ... 第 1 突出部

119, 119b ... 第 2 突出部

1 2 0 , 1 2 0 a ... 移動片
1 3 0 ... 弾性部材
1 3 3 ... ストッパー
1 3 5 ... 耐火パッキン
1 4 0 ... シール部材
1 4 2 ... 突出部分
1 5 0 ... 押ナット
1 5 2 ... 溝部
1 6 0 ... ストップリング
1 7 0 ... 水密Ｏリング
1 8 0 ... 選択透過性部材
1 9 0 ... 水密パッキン
1 9 5 ... インジケータ
2 0 0 ... コルゲート管
2 1 0 ... 管状部材
2 2 0 ... 樹脂層
H P ... 距離
M 1 ... 山部
V 1 , V 2 ... 谷部